

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200082		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家 名古屋南 (2F)		
所在地	愛知県 名古屋市 南区 本星崎 大字大道 372		
自己評価作成日	平成24年11月30日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.pref.aichi.jp/korei/kohyo/kohyo-gaiyo.html">http://www.pref.aichi.jp/korei/kohyo/kohyo-gaiyo.html</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人(NPO法人) あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル2F		
訪問調査日	平成24年12月11日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から8か月が経ちました。未経験の介護スタッフや経験者の介護スタッフと協力し「たのしい家名古屋南」作りをしてきました。まだ手探り状態ですが、丁寧に安心してサービスを日々心掛けており、かつ飽きのこないホーム作りをしています。又、デイビスとの併設を生かし、レクリエーション、季節の行事催し物、外出を合同で開催し交流を深め、閉鎖的にならないように努力しています。夏祭りでは地域の方々にも参加していただきました。これからも地域の皆様に更に深く地域密着型サービスを知っていただけるように努めます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは名古屋市の南部に位置し、近くに天白川が流れる幹線道路沿いにある。1階はデイサービス、2階と3階はグループホームの3階建てである。開設して1年に満たないが、祭りの参加や散歩などを通して地域に溶け込む努力をしている。家庭的なイメージを大切にし、入居者の思いやペースに合わせた支援に努め入居者と共に楽しみを持ちながらケアを行っている。家族にも介護計画の状況を目で確かめられる様に、入居者の日頃のケアの様子をアルバムの形にし工夫をしている。家族や職員の意見も随所で聞いたり、アンケートなども実施し意見を運営に反映させている。入居者は明るく清潔な居間で、職員との会話を楽しみながらのんびりと過ごしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とオープン時に職員全員で作った施設理念をみえる場所に掲示している。	法人の基本理念を背景にホーム独自の理念を職員で考え作り、各ユニットごとにホームに掲示している。家庭的なイメージでケアができるように、日々の申し送りで読み合わせをし共有している。機会あるごとに問いかけては共に考え理念の意図を理解し支援に繋げるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・イベントに参加している。運営推進会議・広報誌で情報収集している。	ホーム開設時には町内会長へ挨拶に伺い、町内会とのコンタクトを図り、町内会に加入した。町内の情報や回覧資料等の提供もあり、良好な関係を保ちつつある。お祭りや盆踊り、区民館祭り等地域の行事に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ディ・サービスと合同で夏祭りを開催し地域に開放した、5月に包括支援センターの方に認知症サポーター研修をして頂き、施設内見学をしていただきGH及び認知症ケアの理解をしていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6・8・10月と3回開催する。サービスの報告をし、ご家族のご意向を聴き改善できる事は改善し次回の会議で報告している。不参加の方には、配布資料・議事録を郵送している。	入居者、家族、自治会長、包括支援センターの参加を得て、2か月に1度開催している。家族や関係者には案内を出し参加を依頼をしている。地域との情報交換、入居者の状況や活動報告がされ、問題点等を協議しサービス向上に繋げるようにしている。職員には、会議内容を口頭で伝えるようにしている。	各職員が運営推進会議の内容を把握し、より深い意識を持って日常のケアサービス向上に繋げていくよう、口頭のみならず会議録での周知方法を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの依頼で、認知症家族会の方々に、GHでの認知症ケアについてお話させていただく。	認定代行等の折に訪れたり、制度・研修・申請等の情報交換を通して連携を図るようにしている。包括支援センターの職員を講師に招き研修をしたり、ホームの職員が講師として出向いたりして相互の協力関係を深めている。また、事業所連絡会の研修に参加し、広域的な情報を得るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時に身体拘束の研修を行っており、年間研修計画で年1回必ず行っている	身体拘束に関するマニュアルが整備され、拘束に関する研修が実施されている。日々のケアの中で拘束について振り返りの機会を持つようにし、入居者が抑圧感のない暮らしに取り組んでいる。それぞれのホームの入り口は日中開錠されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に高齢者虐待の研修を行っており、年間研修計画で年2回必ず行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方がおられ学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書にて充分説明をし、理解して頂けるよう説明を行う		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で利用者・ご家族・地域・包括支援センターCMのご意見を頂き運営に反映させている。今後は外部評価での評価結果・社内顧客満足度アンケート結果も参考にしていく。	運営推進会議や来訪時、意見箱等を通して要望等を聞くようにしている。面会の方が多いので継続的に意見や要望を聞くことができる。運営推進会議不参加の方には、会議録を郵送し情報を伝えている。意見や要望は、スタッフミーティングで検討し運営に反映するようにしている。ホーム便りの準備も近い近々発行する予定である。	ホーム便りの発行は、情報を家族や外部者などに提供していく良い機会でもある。写真や個人情報に関して掲載する同意を得て行うことを願いたい。また、家族間の交流や意見を聞く場として、家族会の立ち上げを検討していくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設内会議での意見交換、担当エリア上長のモニタリング、社内従業員満足度調査(年1回)、業務改善提案書(随時社長宛て)により意見を聴く機会を設け反映させている。	日々の作業を一緒に行いながら話し合いをしたり、申し送り時、スタッフミーティング等で意見や提案を聞くようにしている。意見や要望は適宜運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「誰のび人事制度」による個々の職員の成長を加味した昇給制度、個店単位の業績一時金制度、処遇改善加算の全額(業績により加算あり)支給、残業0・有給完全消化推進、業務改善提案書による業務改善・環境改善		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修をし各施設へ伝達研修を義務づけている。研修担当者が施設へ出向いての伝達研修フォロー、技術研修を実地している。CM・介福の受験対策講座、基礎研・2級取得支援、自己啓発の為の外部研修の推進		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区内GH連絡会に参加し、勉強会・親睦会をし情報交換をしている。日常的にディサービスとの交流をはかり外出やレクを合同でしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に性格や趣味、生活歴等をスタッフ間で把握し本人が安心した生活が送れるように関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や疑問点等を解消できるように要望を聞いたり、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とのアセスメントはもちろん、家族様とも話す機会をできる限り設け、要望などを把握し、サービスの向上に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援をメインに「介護」という意識ではなく、一緒に暮らしているという意識で関係を作れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の状況等を伝えながら、家族様にも現状態を把握してもらい、共に本人を支えていけるような関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時は馴染みのあるものを持参していただくよう家族様に伝えている。馴染みの場所や、関係が途切れないように努める必要がある。	入居時に生活歴を聞き、馴染みの関係把握に努めている。入居者の友人が面会に訪れ懐かしみを感じている。行きつけの理髪店や美容院、かかりつけ医、お墓参り等は、家族の協力を得て継続の支援をしている。地域の店での買い物や喫茶店、神社のお参り等を通して、新しい馴染み作りにも心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、職員が仲介等をして円滑な関係を作れるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あまり、サービスが終了したことがないが、相談や支援していけるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別で対応が必要な場合本人の意向にできるよう努めている。	日々のケアの中での会話や動作、表情から思いを感じ取るように心がけている。また、入浴時や就寝前の寛げる時間に一緒にお茶を飲みながら話をし、何時にもない思いを聴きだすようにしている。困難な場合は家族から聴くようにしている。思いは、申し送り記録に記載し共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時や入居後もスタッフと家族とのやり取りで生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できないことを見つけるのではなく、できることを見つけ支援できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の意向や要望等をカンファレンスで話しあい、なるべく適した計画書を作成している。	3か月に1度のカンファレンスには家族の意向や提携医の意見も伺い計画に反映させている。入居者の様々な様子をアルバムにし、動作や表情から介護計画の一端が視覚で確認できるようにしてあり、家族からもよい評価を受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活介護記録や申し送りノートなど、普段の気づきやケアの実践等を記録しスタッフ間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人のかかりつけ医が隔週で往診にきている。	入居時にかかりつけ医選択の希望を聞いているが、日頃連携がとれやすいように事業所提携医を提案しているが、一人ひとりの病状や状態によりかかりつけ医や専門医などの受診も行っている。休日にも連絡が取れるように、病院との連携を密にしている。通院は家族の協力をえているが、緊急時や家族の対応が困難な場合は職員同行等の支援をしている。必要に応じて結果を家族に電話で知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の気づきを訪問看護に伝え、往診医と情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いや、面会時などに情報を得て、往診医や家族とも連絡を取りあい、早めの退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を家族様や、往診医と相談し決める。家族や本人の意見を優先している。	法人としての「看取りに対する方針」がある。事業所としても看取りをしていく方針であり、入居時に説明をし同意を得ている。重度化した場合は、家族や医師と話し合い方針を決めて行くとしている。職員には事例を交えた研修もしている。	今後に向けて重度化した場合や終末期のあり方についての方針を理解し、遭遇した場合の心構えや対応について、実践力を高めていくことを期待したい。また、職員のメンタルケアにも取り組んでいくことを願いたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練や研修をおこない、急変時に対応できるように努めている。緊急連絡先などを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練をおこなっていく予定。災害時対応バッグなどを設置している。	深夜を想定した職員体制での火災訓練を実施する予定である。運営推進会議でも防災についての話題を取り上げ、近隣の協力が得られる様にしていくことを提案したいと考えている。水や米、食品等3日間の備蓄もしている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や、生活歴を把握し人格を尊重し、自尊心を傷つけないように声掛けをしている。	職員の言葉遣い、言葉かけ、対応等、日々の業務の中やプライバシーの研修の折に指導をしている。入居者に対して、思いやる気持ちを持ち、人格や誇りを損なうことのないように、また、家族が嫌な思いをしないように、職員への意識付けに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望があった場合、それに沿って自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルになるべく近づけ希望の生活が送れるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	約月一回の訪問理美容を利用している。服装は本人の好みにあわしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	材料を一緒に切ったり盛り付けをしてもらったりして、食事の準備の時間を共有したり、一緒に食事をしている。	職員の声かけと支えで、入居者ができる作業を行っている。入居者は手伝いに喜びを感じ、生き生きとした表情で取り組んでいる。職員も入居者と一緒に会話をしながら楽しく食べている。時間で追うようなことはせず、その人のペースや方法に合わせ気長に支援をしている。誕生日には、その人が好きなものを食べに行く支援もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は生活介護記録に記入している。摂取量等少ない場合は本人の好きな飲み物を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを声掛けし、おこなっている。又、週に一回訪問歯科をうけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	IN・OUTチェック表を作り個々の排尿パターンに応じトイレ誘導をおこなっている。又、リハビリパンツやおむつは使用しない方向に努めている。	一人ひとりの素振りを見ながら誘導をしている。排泄記録を基にそれぞれの排泄パターンに合わせ、きめ細やかなケアに努めている。日中はなるべく布パンツで過ごせるようにし、リハビリパンツから布パンツへと自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や便の回数を記載し、便秘時の場合往診医の指示で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせ本人の要望を聞いている。曜日を設定しているが、臨機応変な対応に努めている。	毎日風呂を沸かし、午前午後を問わず2日に1度の入浴を基本としている。個浴を尊重し、体調や好みに合わせて湯温を調節したり、入浴剤を使いゆったりと入浴を楽しんでいる。風呂上がりのスポーツドリンクを楽しみにして入浴をする方もいる。また、気分を変えディーサービスの足湯も利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のスタイルに合わせ、本人が眠たい時に寝れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと、副作用や変化等の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯たたみや干しを役割としておこなっている。又、月一回の外出や、毎月飽きのこないように生活を送れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望があればいけるよう努めている。又、普段行けないような場所は、事前に計画をたてるよう努めている。	日常的に外出をする機会は少ないが、近くの神社や公園を散歩している。入居者の希望で喫茶店に行ったり、コンビニや衣料雑貨店、スーパーマーケットに買い物に出かけている。誕生日を祝ってその方の希望する店での外食も行っている。また、家族にも呼びかけをし一緒に外食をする機会を設けている。紅葉狩りなど季節に応じた外出もしている。	



自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身でお金を所持したい方は、家族様と相談し所持していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという訴えがあれば、家族様の許可を得てかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように利用者様と季節にあった装飾作りをしている。	ホーム内は明るくスッキリとして清潔感が漂う。2階3階はそれぞれ壁紙やカーテンの色で個性を醸し出している。日当たりのよい居間兼食堂に皆が集い、ゆっくりと寛いでいる。季節ごとの装飾品作りやカラオケ、塗り絵をして楽しむ機会もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置したり、なるべくかたまれるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の要望を取り入れている。	居室の入り口には入居者に応じ、自分の顔写真や名字の表札がかかっている。神棚や仏壇、自作の油絵、馴染みの家具や家族の写真等、個性豊かに飾られ、入居者が落ち着いて過ごせる居室となっている。また、ベットや布団等個人の生活様式に合うようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ないことを見つけるのではなく、できることをみつけ、個々に役割を持ていただき自立できる生活を送れるよう支援に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200082		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家 名古屋南 (3F)		
所在地	愛知県 名古屋市 南区 本星崎 大字大道 372		
自己評価作成日	平成24年11月30日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.pref.aichi.jp/korei/kohyo/kohyo-gaiyo.html">http://www.pref.aichi.jp/korei/kohyo/kohyo-gaiyo.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人(NPO法人) あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル2F		
訪問調査日	平成24年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とオープン時に職員全員で作った施設理念をみえる場所に掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・イベントに参加している。運営推進会議・広報誌で情報収集している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ディ・サービスと合同で夏祭りを開催し地域に開放した、5月に包括支援センターの方に認知症サポーター研修をして頂き、施設内見学を見学していただきGH及び認知症ケアの理解をしていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6・8・10月と3回開催する。サービスの報告をし、ご家族のご意向を聴き改善できる事は改善し次回の会議で報告している。不参加の方には、配布資料・議事録を郵送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの以来で、認知症家族会の方々に、GHでの認知症ケアについてお話させていただく。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時に身体拘束の研修を行っており、年間研修計画で年1回必ず行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に高齢者虐待の研修を行っており、年間研修計画で年2回必ず行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方がおられ学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・需要事項説明書にて充分説明をし、理解して頂けるよう説明を行う		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で利用者・ご家族・地域・包括シセンセンターCMのご意見を頂き運営に反映させている。今後は外部評価での評価結果・社内顧客満足度アンケート結果も参考にしていく。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設内会議での意見交換、担当エリア上長のモニタリング、社内従業員満足度調査(年1回)、業務改善提案書(随時社長宛て)により意見を聴く機会を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰のび制度による個々の職員の成長を加味した昇給制度、個店単位の業績一時金制度、処遇改善加算の全額(業績により加算あり)支給、残業0・有給完全消化推進、業務改善提案書による業務改善・環境改善		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修をし各施設へ伝達研修を義務づけている。研修担当者が施設へ出向いての伝達研修フォロー、技術研修を実地している。CM・介福の受験対策講座、基礎研・2級取得支援、自己啓発の為の外部研修の推進		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区内GH連絡に参加し、勉強会・親睦会をし情報交換をしている。日常的にディサービスとの交流をはかり外出やレクを合同で行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に性格や趣味、生活歴等をスタッフ間で把握し本人が安心した生活が送れるように関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や疑問点等を解消できるように要望を聞いたり、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とのアセスメントはもちろん、家族様とも話す機会をできる限り設け、要望などを把握し、サービスの向上に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援をメインに「介護」という意識ではなく、一緒に暮らしているという意識で関係を作れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の状況等を伝えながら、家族様にも現状態を把握してもらい、共に本人を支えていけるような関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時は馴染みのあるものを持参していただくよう家族様に伝えている。馴染みの場所や、関係が途切れないように努める必要がある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、職員が仲介薬等をして円滑な関係を作れるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あまり、サービスが終了したことがないが、相談や支援していけるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別で対応が必要な場合本人の意向にできるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時や入居後もスタッフと家族とのやり取りで生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できないことを見つけるのではなく、できることを見つけ支援できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の意向や要望等をカンファレンスで話しあい、なるべく適した計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活介護記録や申し送りノートなど、普段の気づきやケアの実践等を記録しスタッフ間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人のかかりつけ医が隔週で往診にきている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の気づきを訪問看護に伝え、往診医と情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いや、面会時などに情報を得て、往診医や家族とも連絡を取りあい、早めの退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を家族様や、往診医と相談し決める。家族や本人の意見を優先している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練や研修をおこない、急変時に対応できるように努めている。緊急連絡先などを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練をおこなっていく予定。災害時対応バッグなどを設置している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や、生活歴を把握し人格を尊重し、自尊心を傷つけないように声掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望があった場合、それに沿って自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルになるべく近づけ希望の生活が送れるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	約月一回の訪問理美容を利用している。服装は本人の好みにあわせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料を一緒に切ったり盛り付けをしてもらったりして、食事の準備の時間を共有したり、一緒に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は生活介護記録に記入している。摂取量等少ない場合は本人の好きな飲み物を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを声掛けし、おこなっている。又、週に一回訪問歯科をうけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	IN・OUTチェック表を作り個々の排尿パターンに応じトイレ誘導をおこなっている。又、リハビリパンツやおむつは使用しない方向に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や便の回数を記載し、便秘時の場合往診医の指示で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせ本人の要望を聞いている。曜日を設定しているが、臨機応変な対応に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のスタイルに合わせ、本人が眠たい時に寝れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと、副作用や変化等の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯たたみや干しを役割としておこなっている。又、月一回の外出や、毎月飽きのこないように生活を送れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望があればいけるよう努めている。又、普段行けないような場所は、事前に計画をたてるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身でお金を所持したい方は、家族様と相談し所持していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという訴えがあれば、家族様の許可を得てかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように利用者様と季節にあった装飾作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置したり、なるべくかたまれるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の要望を取り入れている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ないことを見つけるのではなく、できることをみつけ、個々に役割を持っていただき自立できる生活を送れるよう支援に努めている。		